

しごとの
DX

仕事しやすくなる

新事業の創出や生産性・安全性等の向上
による持続可能な産業の実現

無料のデジタルツールで簡単に農地を「見える化」 (株式会社つじ農園)

農家の高齢化と離農によって、なじみのない農地を預かることも増えました。生産規模が拡大していくなかで、デジタルツールを使って農地の管理業務や農業経営の効率化を進めています。

作業場所とその日にする作業を「見える化」して共有 農地の管理業務を効率化し、より良い作物づくりに注力

株式会社つじ農園 代表取締役 辻 武史さん

■ DXに取り組んだきっかけ

就農した2016年頃は、農地の管理がまだまだおおざっぱな状況でした。前職の製造業で得たノウハウを農業に生かしていこうと思い、農業も基本的には製造業なので、品質管理などの継続的な業務改善の方法であるPDCAのサイクルは一緒という観点から、デジタルツールの導入を進めています。



① どこに何が植えられているかを把握することが大切

7品種の米を栽培していて、有機栽培も行っているのですが、肥料や農薬を間違えないように、どこに何が植えられているかを把握しておくことがとても大切です。

デジタル化開始当初は無料の地図表示ソフトを使って農地の「見える化」を進めました。区画された農地に「1」、「2」…のように番号を付けて色分けし、何が植えられているのか、どこまで作業が進んでいるのかが分かるようにしています。

このデータをチャットツールで作業者に送れば、わざわざ会って作業指示をする必要はありません。作業終了後は日報に作業記録を入力することで、データとして情報が溜まっていきます。



② DXのいいところ

農地を「見える化」すれば、例えば、津市以外など遠方で土地を預かったとしても、津市にいながら田んぼの状況が分かります。

どのように事業を拡大していくか想像がふくらみますし、考え方も柔軟になることがDXの良いところだと思います。

当社ではドローンを使った農地の生育解析なども行っており、農業のDXを広く発信することで、若い世代の方に「こんな農家ならやってみよう」と思ってもらえると嬉しいです。

③ 農業にふれていただく接点に

自分の食べるものがどのようにできているのか知りたいという、若い世代が増えていますが、都会の方などは農家との接点がありません。繁忙期には人手が必要になるため、副業(アルバイト感覚)でこのような方に来ていただき、農業に触れていただく接点になれると良いと思っています。そんな時にも、農地が「見える化」されていれば、どこでどんな作業をするのか事前に、簡単に共有することが出来ます。

DXの取組によるメリット

《従業員側》

- 口頭での指示ではなく文字データで何をすべきか確認できるので、作業ミスが起こりにくい
- 初めて作業に行く場所でも迷わない

《会社側》

- 管理業務を効率化することで、より良い作物づくりに注力できる
- 人材の受け入れ体制を構築することで、地域の農業活性化につながる

これからDXの取組をされる方へのメッセージ

何のためにDXに取り組むのかという「目的」を明確にすれば、数多くある無料のデジタルツールを使うだけでも、さまざまなDXを実現できると思います。目的に合わせて、簡単にできることから取り組んでみてはどうでしょうか。



PROFILE

株式会社つじ農園

【所在地】津市大里睦合町1211

【業 種】農業